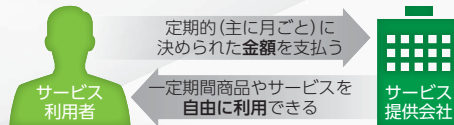


サブスク
1

古くて新しい「サブスクリプション(サブスク)サービス」

近年、動画配信サービスを始め、様々なサブスクサービスが登場しています。「サブスクリプション」とは「定期購読」という意味で、元々は定期購入型のサービスに使われていましたが、新たなサブスクサービスにはこれまでとは違うメリットがあります。主なメリットは下記の通りです。

<サブスクサービスの提供形態>



サービス利用者のメリット

定額で選び放題

利用者は複数の選択肢の中から好きなコンテンツを選ぶことができます。例えば、雑誌の定期購読では特定の雑誌しか読めませんが、雑誌のサブスクサービスでは複数の雑誌の中から気になる雑誌を選んで読むことができます。定額で色々なコンテンツを自由に選べるのがサブスクサービスのメリットの一つです。

サービス利用者のメリット

定額で使い放題

基本的に利用者は好きなだけサービスを利用できるため、お得感があります。モノが対象の場合は仕入・配送コストなどの都合で利用に上限が設けられることもありますが、デジタルコンテンツが対象の場合は使い放題のサービスがほとんどです。そのため、気軽にサービスを利用することができます。

サービス提供会社のメリット

売上の安定&
成長につながる

提供会社にも売上が安定するというメリットがあります。利用者がある限り継続して収入を得られるため、外部環境の変化にも強い収入源になります。

また、月額料金で利用者の初期負担が少ないため、新たな利用者を獲得しやすくなります。利用者を増やすことができれば売上の成長が期待できます。

業務ソフトウェアのサブスク化について

当社の主力製品は業務ソフトウェアです。業務ソフトウェアは売上が不安定になりやすい製品のため、サブスクサービスへの移行(サブスク化)によって提供会社は恩恵を受けます。

これまで業務ソフトウェアを提供していた会社は、販売時に受け取るライセンス料が売上の大半を占めるため、ライセンスの販売数によって売上が左右されていました。また、一般的なライセンスには期限がないため、新製品を発売しない限り1回のみの収入になることも売上の不安定さにつながっていました。サブスク化すれば毎月利用料を受け取る形に変わるため、売上を安定させることができます。

当社の場合はライセンスが複数年(通常6年間)の期限付きのため、期限切れになる前にライセンスをお客様に再購入してもらっています。また、提供会社の多くが毎年受け取るソフトウェア保守料がライセンス料に含まれている一方で、独自データベース

などを最新の状態で提供する対価として基本料を毎月受け取っています。そのため、他社に比べて売上が安定しているのが当社の強みの一つです。しかし、年度ごとのライセンス販売数によって売上が左右される構造は同じであるため、サブスク化すれば売上をさらに安定させることができます。

■ サブスク化による料金体系および売上の安定度の変化

支払頻度	サブスク前	サブスク後
複数年ごと (通常6年間)	ライセンス料 (ソフトウェア保守含む)	—
月ごと	基本料	利用料 (全部込み)
売上の安定度	○	◎

直近の取り組みとして、DXソリューション拡充のために Google Workspace™ の取り扱いを開始しました。また、「JPX日経中小型株指数」の2021年度構成銘柄に選ばれました。

Google Workspace の取り扱い・連携を開始 (2月16日)

新型コロナウイルス感染症の影響で、当社のお客様が属する業界においても、デジタル化によるペーパーレスや、商談のオンライン化などのニーズが高まっています。そのため、当社は Google Workspace の取り扱いを開始し、当社サービスとシームレスに連携させることで、お客様の業務効率化や働き方改革を支援します。



Google Workspace とは？

Google Cloud™ の統合型ワークスペースのことで、Gmail™、Google カレンダー™、Google ドライブ™、Google ドキュメント™、Google スプレッドシート™、Google スライド™、Google Meet™ など、使いやすい生産性向上アプリが全て含まれています。

Google Cloud、Google Workspace、Gmail、Google カレンダー、Google ドライブ、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドおよびGoogle Meet はGoogle LLC の商標です。

「JPX日経中小型株指数」の2021年度構成銘柄に選定 (8月10日)

当社は、東京証券取引所および日本経済新聞が共同で算出する「JPX日経中小型株指数」の2021年度



JPX-NIKKEI Mid Small

(2021年8月31日～2022年8月30日)構成銘柄に選ばれました。

構成銘柄の選定は、時価総額などによるスクリーニングに加え、3年平均ROEなどの定量的な指標による評価、独立した社外取締役の選任などの定性的な指標による評価をもとにおこなわれ、200銘柄が選定されます。

「JPX日経中小型株指数」とは？

JPX日経インデックス400で導入した「投資家にとって投資魅力の高い会社」を構成銘柄とするコンセプトを中小型株に適用することで、資本の効率的活用や投資家を意識した経営をおこなっている企業を選定するものになります。